

たまいたま 川柳

総会の社告



永平寺

2019年
2月号 (No.711)

日川協加盟

巻頭言

学びとくらし

願法みつる

人間は、生まれつき好奇心が旺盛なのだと言われる。確かに幼児の知恵の発達する様は驚異的である。そして真似ることを通して、学ぶことの愉しさに目覚めてくる。それは教育による勉強ではなく、興味に対する自発的な学習意欲なのだろう。後年、社会の中で発達してくる複雑怪奇な知の世界への学術論は、ここでは敢えて避ける。

知への欲求は年齢に関係がない。老いて尚飽くなき探究心を発揮して、素晴らしい結果を出す偉大な人物も多い。その意味からすれば、好奇心との巡り合いが人生の視野を育て、学びの実行力を生むことになる。どんな地位であれ、高齢化人生の晩年に、経済力の問題は別にして、ゆとりある時間を趣味に托して学ぶことは有益である。それが遙かな高みを目指すことへの勉強であれば、尽きることのない至福の時を得られることだろう。理屈の上ではだが。

学びの原型が真似ることであるとすれば、老いて尚真似ることには有意性が認められる。幸せと言うべきなのだろう。複雑化する社会ではあるが、恬淡として我以外皆師の心に倣えば、禅的な修行にも通じるだろう。川柳の学びには、上下も頂点もない。精々真似をしよう。下も亦愉しい。

日日是好

願法みつる

古来から神は正しく貧でいる

天と地のしつべ返しが絶え間ない

正月の福に逃げられ早二月

落とし穴過ぎるお方と墜ちる人

ワツハツハたつた一度を死んでみる